

(二) 北川・マミ穴あなのキツネ

昔、北川から大川に行くのも、奈良本に行くのも、道はひとつしかありませんでした。この道に出るには、「南無阿弥陀仏」と書かれた碑ひが立っているマミ穴のところを通過していかなければなりません。このマミ穴のあたりは大変さみしいところで、夜になるとキツネが出てきては、人を化ばかしたとこのことです。このマミ穴のキツネには、次のようなお話が伝わっています。

あるとき、村人が伊東に出かけたのですが、帰りが夜になってしまいました。お土産みやげの魚を肩にかつぎ、ろうそくを手を持ってマミ穴のあたりに来ると、誰かがあとをつけてくるような気がしました。急いでふり向いて、あたりを見回しましたが、誰もいません。

ほっとして、そのまま歩いて行くと、今度は声でするではありませんか。「ろうそくをおくれ。魚をおくれ。」と声が聞こえてきました。

村人はびっくりして、かついでいた魚を放り出し、ろうそくを置いて、一目散いちもくさんに家まで走って逃げました。こんなことがあってから、北川では夜に歩く人はいなくなりました。また、いたずら好きのマミ穴のキツネは、夜にだます人が出てこなくなったので、いつのまにかいなくなつたとのことです。

